Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-28

中国への急接近は韓国の「先物買い」

木村，幹

(Citation)
週刊東洋経済,6472:79-79

(Issue Date)
2013-07-13

(Resource Type)
article

(Version)
Accepted Manuscript

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001929

KOBE UNIVERSITY

朴槿恵政権成立以後、韓国の中国への接近が進んでいる。対照的に、韓国における日本の地位は急速に低下し、今や韓国にとっての日中両国の「重さ」は天秤の両端に並べる事のできないものになっている。

だが振り返れば、韓国にとって中国がこれほど重要な存在になったのは、つい最近の事だ。冷戦期には、西側陣営に属する分断国家だった韓国は中国と国交さえ有していなかった。両国の国交正常化が為されたのは 1993 年だから、中華人民共和国と大韓民国の公式な関係は、僅か 20 年の歴史しかない計算になる。中国との貿易額が日本とのそれを上回るようになったのは、それから 10 年後の 2003 年、翌 2004 年に米国のそれをも上回る事になっている。

更に言えば、韓国における中国の重要性はそれから暫く後も、米国は勿論、日本よりも小さかった。政権末期には竹島上陸等で日韓関係を紛糾させた李明博政権も、2008 年の政権出帆当時には中国よりも日本を重視する姿勢を見せていた。

では、何故今、韓国の中国への急速な傾斜が起こっているのだろうか。1987 年の民主化以後、政権出帆直後の支持率が最も低い朴槿恵政権に、大きな外交的選択が出来る独自の力はない事は明らかだ。つまり、朴槿恵政権の選択は、政権自身の選択である以上に、背後にある韓国世論の選択なのである。実際、今日の韓国の主要メディアにおいて、中国への接近に警笛を鳴らす声は、極めて小さい。

では、このような状況は何故生まれたのか。第一に重要なのは、既に述べた中国の経済的重要性の増加である。例えば現在、中韓貿易の規模は韓国の GDP の 20%以上に達している。日本の同じ数字が 5%前後だから、韓国にとっての中国の重要性がいかに大きいかがよくわかる。

中国の経済的重要性が増せば、ビジネス界との密接な関係を持つ「保守派」が中国を重視するようになるのは当然である。実際、今日の韓国では「進歩派」のメディアよりも、寧ろ「保守派」のメディアにおいて中国重視論が目立つようになっている。だからこそ、「保守派」の政権である朴槿恵政権において、中国が重視される訳である。

だがそれだけなら韓国の中国重視論はその経済的重要性に見合ったものに過ぎない事になる。だが、韓国での議論をより詳細に見ていくと、そこに二つの大きな「弾み車」がついている事がわかる。一つは文化的近接性への共感である。例えば、3 月末に公表された韓国外交の基本方針を示す文書にて、韓国政府は「人文紐帯の強化」という用語を使っている。中韓両国は等しく、東アジア文化圏の一員であり、その文化的紐帯を強化しなければならない、と言うのである。そこには同じ文化圏に属するが故に容易に分かり合う事ができる、という期待が存在する。

もう一つの「弾み車」は、世界が米中二カ国中心の体制へと向かいつつあると言う認識だ。それを典型的に示すのは、韓国で「G2」という用語が、頻繁に用いられる事だろう。周知のようにこの言葉は、2008 年、第 1 期オバマ政権出帆時に米国側が積極的に用いたものであり、目的は中国に国際社会の主たる一員としての自覚を促す事だった。その意図を見越した中国は、この用語に寧ろ忌避感を示した、と言われている。

しかし、世界の多くの地域では、今日、この G2 という用語は余り使われなくなっている。中国の国力が未だ米国に遠く及ばない事、そして現在の世界では特定の国家が冷戦下の米ソ両国のように圧倒的な力を振るう事が難しくなっている事がその理由である。

にも拘らず、韓国ではこの G2 と言う言葉が今日の現実を示すものとして用いられている。背景にあるのは、韓国人の「歴史認識」とも言うべきものである。前近代において長らく中華帝国の影響下で生きてきた韓国の人々にとって、世界に覇権国家が存在する状況こそが「常態」であり、彼らはその存在を前提として生存戦略を立ててきた。

そして今日の韓国では、中国がやがては米国を上回る覇権国家になるであろう、という予測が当たり前のようになされている。韓国人が一斉に中国への傾斜を強める理由もここにある。そこから米中の立場がやがて逆転するのであれば、「沈む太陽」米国よりも、「昇る太陽」中国に賭けた方が賢明だ、という考え方が生まれる事になる。

しかしながら、このような「先物買い」は当たれば利益が大きい反面、外れればそのリスクも大きくなる。米中両国の関係、そして、世界の国際秩序は果たして韓国の人々が考えるように動くのか。お手並み拝見と決め込むのも一つの重要な選択肢なのかも知れない。